

令和7年度 学校評価報告

草加市立新里小学校
(令和8年1月30日作成)

1 学校教育目標	
かしこく（知） なかよく（徳） たくましく（体）	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上 【わかる、できる授業と ともに楽しい授業】 ・豊かな心と規律ある態度の育成 ～今日も楽しい学校 明日も楽しみな学校～ ・健康教育の推進 ・地域とともにある学校づくり 【家庭でしつけ、学校で学び、地域で育てる】 	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科、算数科の研究授業を中心とし、互いに学びあい高めあう教職員集団となった。 ○生徒指導・いじめ防止・不登校対策委員会を機能させ、不登校児童が減少した。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●校内研修を通じた、さらなる教員の学級経営力の向上を実現する。 ●PDCAサイクルを生かした学校行事等を改善する。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○職員会議等、諸会議の効率化を実現した。 ●校務分掌の見直しと再構築により、より円滑な学校運営に資する。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○算数科を中心に、各学年で授業研究を行い、系統立てた授業の型を形成できた。 ●落ち着いた学級経営と学力向上を目指し、更に研修を推進していく。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○事故防止に向けて、危機管理マニュアルを追加作成し、全教職員で共通理解して安全管理等を推進した。 ●様々な緊急事態発生時の対応について、常に全教職員で共通認識を持って、より安心・安全に対応できる体制を整える。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○校務システムの活用により、管理すべき個人情報を選別した。 ○個人情報・情報機器等の持ち出し簿を整備し、明確な管理体制を整えた。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校公開、学校運営協議会、安心安全会議等を計画的に実施した。 ○PTA活動の精選と連携を円滑に実施した。 ●学校教育における地域人材の活用をさらに推進する。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○目指す子ども像を共有し、交流活動を深めることができた。 ●幼保の活動を参観する機会をもてるよう、次年度計画して実施する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○年間指導計画や学力向上プランを活用し、確かな学習評価を行うとともに、教育活動の改善につなげた。 ●授業時数の縮減による、年間指導計画の見直しと、学校行事等との調整が必要である。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修を通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図り、授業改善につなげた。 ●学級経営を核とした更なる指導力・授業力の向上が必要である。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳ノートや個人面談、通知表を通して、道徳の授業での学びを家庭と共有した。 ●日々の授業を充実させるための研修を推進する。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○4～6学年で教科担当制を実施し、ALTとの連携のもと、授業内容を充実させた。 ●教職員全体での授業力向上に取り組む。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童主体の活動を充実させ、主体的な児童会活動を展開した。 ●学校行事の見直し・精選を行っていく。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○年間指導計画に基づき、体験的活動や探究的学習を充実させた。 ●地域学習の充実と地域人材の積極的活用を行う。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ケース会議の実施、SSWとの連携など、チーム対応を軸として対応の充実を図った。 ●不登校対策（予防的対策、外部連携対応）を充実させる。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各学期や学校行事等の振り返りを行い、自己の成長を見つめる機会を確保した。 ●キャリア教育の年間計画を充実させる。（各教科、教育活動等との関連を明確に）
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○通常学級における配慮を要する児童について、全教職員で情報共有をし、指導・対応した。 ●限られた人材の中での校内支援体制について、今後も検討していく。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校司書、図書ボランティア協力のもと、児童が本に触れる機会を増やすための読み聞かせの実施や図書館環境の整備が進んだ。 ●家庭や学級における読書を啓発していく。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○AIドリルやICT機器を授業で積極的に活用した。 ●情報モラル教育の計画的実施を行う。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○職員向け研修の内容の検討・充実を図り、その内容を各教科等の教育活動と関連させて指導を行った。 ●人権感覚育成プログラムを更に活用していく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 基礎、基本の定着 校内研修、授業研究会の実施 家庭との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○算数科の研修を通して、授業力の向上を実現した。 ○基礎、基本の定着のため、授業内での帯活動の工夫やAIドリルの積極的活用を行った。 ○全学級で授業を公開し、各学級担任の特色や指導法について共有した。 ●学級内での学力の二極化に対応した授業を更に充実させる。
	②健康・体力向上	<ul style="list-style-type: none"> 体育科授業の充実 健康教育の推進 体育的諸活動による健康・体力の向上 健康指導の充実 食育指導の充実 家庭や関係機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○体力向上を目指し、校内持久走大会の取組や体育朝会の縄跳び運動を、体育科の年間指導計画と関連させて実施した。 ○歯みがき教室や薬物乱用防止教室において、外部講師を招聘して充実した指導を行った。 ●夏季の気温上昇に対応する体育科年間指導計画の見直しを行う。(室内種目や保健領域の実施時期の調整)
	③家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携 学校応援団の活動推進 学校運営協議会の充実 地域人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○安心・安全応援団会議や学校運営協議会を開催し、学校内外の状況について綿密に情報共有を図り、課題等を踏まえた上で学校経営・学校運営の充実につなげた。 ●学校応援団の更なる拡充と地域人材の効果的な活用に取り組む。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- 算数科を中心に、全学級で授業を公開し、各学級担任の特色や指導法について共有することで授業力の向上を実現した。また、基礎、基本の定着のため、授業内での帯活動の工夫やAIドリルの積極的活用を行った。落ち着いた学級経営と学力向上を目指し、更に研修を推進していく。
- 生徒指導委員会や不登校対策委員会を定期的で開催するとともに、ケース会議の実施、SSWとの連携など、チーム対応を軸としての対応を充実させた。今後も、不登校対策(予防的対策、外部連携対応)を一層充実させていく。
- 安心・安全応援団会議や学校運営協議会を開催し、学校内外の状況についての綿密な情報共有を行うことで、課題等を踏まえた上での学校経営・学校運営の充実につなげた。

6 次年度の改善策

- 学力の二極化に対応した授業を更に充実させていく。そのために、学級経営を核とした教科等における研修を計画・実践していく。
- 昨今の様々な現代的・社会的課題等を踏まえ、緊急事態発生時の対応について、常に全教職員で共通認識を持って、より安心安全な対応できる体制を整える。
- PDCAサイクルによる教育計画の更なる改善を行う。授業時数の縮減による、年間指導計画の見直しを年度内に確実に実施する。学校行事等との関連を考慮し、実態に則した各教科の年間指導計画を作成する。各学期での教育課程の進捗状況を確認し、年度内でも改善を行っていく。